

## 小笠原諸島世界自然遺産地域連絡会議の今後の進め方（案）

## ■地域連絡会議のあり方、進め方に関する昨年度からの動き

|                                  |  |
|----------------------------------|--|
| 令和元年度<br>地域連絡会議<br>(R1. 7、R2. 1) | 地域連絡会議のあり方、進め方について、参画団体より問題提起                    |
| 参画団体<br>ヒアリング①<br>(R2. 3)        | 地域連絡会議でのご意見を踏まえ、地域連絡会議に関する認識や意向について、参画団体にヒアリング   |
| 事務局会議等<br>(R2. 3～R2. 6)          | 参画団体ヒアリング①の結果を踏まえ、現地事務局、合同事務局等で地域連絡会議の改善案、進め方を検討 |
| 参画団体<br>ヒアリング②<br>(R2. 7)        | 事務局で検討した地域連絡会議の改善案、進め方について、再度参画団体に説明、ヒアリング       |

## &lt;参画団体の意見概要&gt; ※ヒアリング①②については結果概要

|                                  |  |
|----------------------------------|--|
| 令和元年度<br>地域連絡会議<br>(R1. 9、R2. 1) | <p>【地域連絡会議のあり方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連絡会議が単なる事業報告会となってしまう点、改善してほしい。</li> <li>・会議の論点を1～2ページにまとめたペーパーを事前に配布し、各参画団体の意見を事前聴取するなどといった下準備が必要ではないか。実りのある議論をするために、読めばわかるもの、ここで議論しなければならないものを、事務局で事前に仕分けする必要がある。地域連絡会議は、世界遺産価値を保全管理する上で、村民の意見を反映する非常に重要な役割を果たしている会議である。ここで十分な意見が出されていないのは問題である。</li> </ul> <p>【懇談会等のアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分類群ごとにワークショップを作り、そこに地域連絡会議のメンバーも参加し、1～2日かけて議論するのはどうか。</li> <li>・世界遺産を担保しているはずの法律や制度についても、地域連絡会で個別に法律制度の勉強会を開いてほしい。</li> <li>・もう少し自由に意見交換をできる地域懇談会のようなものを設けて、そこで議論して集約したものを地域連絡会議にあげるという流れを作るのが良いのではないか。</li> </ul> |
| 参画団体<br>ヒアリング①<br>(R2. 3)        | <p>【地域連絡会議に求める役割について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①合意形成は難しく、あくまで情報共有の場、②地域の意見をどう反映するか、地域がどうか関われるかを考える場、③合意形成・意思決定まで行う場など、団体間で認識に差がある。</li> </ul> <p>【参画団体の役割について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺産管理に対する責任の有無について、認識が割れている。</li> <li>・管轄外の発言は適当でなく、話題によっては参画団体として意見がない場合もあり得るという意見が一定数ある。</li> <li>・そもそも会議に出るメリットがない、と感じている団体もある。</li> </ul>   |

|                                   |   |
|-----------------------------------|---|
|                                   | <p><b>【会議における事業報告について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>多くの団体が事業報告は必要</u>と考えている。</li> <li>・ ただし、会議の場で全事業の報告をする必要はなく、資料による報告があれば良いという意見もある。</li> </ul> <p><b>【会議運営や体制について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>会議時間（特に説明時間）が長い、資料が多い</u>といった意見の他、<u>テレビ会議のデメリット</u>（顔が見えない、雰囲気伝わらない、声が聞きにくい）により<u>参加意欲が低下する、といった意見が挙げられた。</u></li> </ul> <p><b>【地域連絡会議の改善案について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下記のアイデアが挙げられた。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①深く議論するために参加者数を10名くらいにする。</li> <li>②コミュニケーションを取りやすい場を設定する。</li> <li>③目的やテーマごとに議題を絞って会議を設ける。</li> <li>④資料説明は、特に重要なもの、村民生活に関わるものに絞り込む。</li> <li>⑤調整事項を明確化する。</li> <li>⑥現場視察を取り入れる。</li> <li>⑦テレビ会議の環境を改善（音声マイクやスピーカーを導入）する。</li> </ol> </li> </ul> |
| <p>参画団体<br/>ヒアリング②<br/>(R2.7)</p> | <p><b>【地域連絡会議の改善案について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局提案の方針（地域連絡会議前に懇談会を開催し、地域連絡会議の議題を仕分けする）には、<u>全ての団体から賛同が得られた。</u></li> <li>・ ただし、<u>懇談会は議論がしやすいよう少人数に分ける、父島と母島で分けるなどして実施してほしい</u>との意見が複数挙がった。</li> </ul> <p><b>【地域連絡会議の議題について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>地域連絡会議で取り扱う議題は、人の生活や産業に関わるものが主になる</u>との意見が多い。</li> <li>・ 今抱えている課題は、いずれも解決困難なものが多いとの認識も強い。</li> <li>・ また、<u>地域の人の目や力を借りながら遺産管理をしていってはどうか</u>という意見も複数挙がっている。</li> </ul>   |

■ヒアリング結果を踏まえ整理した地域連絡会議の今後の進め方（案）

＜地域連絡会議の目的、検討事項（小笠原諸島世界自然遺産地域連絡会議 設置要綱より）＞

**目的** 小笠原諸島世界自然遺産地の適正な管理のあり方を検討し、検討結果の実現に最大限の努力を行うために設置し、関係機関の連絡・調整を図る。

- 検討事項**
- ①遺産地域の管理計画に関する事項
  - ②遺産地域の適正な保全・管理を推進するための連絡・調整に関する事項
  - ③その他、目的を達成するために必要と認められる事項

＜地域連絡会議の進め方（案）＞

- ・地域連絡会議の検討事項は、地域・内容ともに多岐に渡ることで、また、案件により検討の難易度が異なることから、地域連絡会議の前に「地域連絡会議・懇談会（仮称）」を開催し、地域連絡会議で議論すべきことを選別する。

地域連絡会議・懇談会（仮称）

**目的**：遺産関連事業の状況を共有し、地域連絡会議で議論すべき事項を選別する

**参加者**：管理機関＋参画団体

**開催方法**：父島、母島、内地の3会場をテレビ会議システムで接続。

外部ファシリテータを進行役とし、ざっくばらんな意見交換会を目指す。

※自由な意見交換を促すため、非公式で開催する

**主な議題**：

- ・遺産関連事業に関する情報共有（管理機関より）
- ・地域で感じる課題の共有（参画団体より）

⇒話題を下記3つに分類し、①②は地域連絡会議の議題とする。

①連絡調整事項…地域連絡会議で改めて連絡調整すべきもの

②課題解決が必要な事項…他に議論の場がないなど、地域連絡会議において何らかの対応策を検討する必要があるもの

③それ以外…個別具体的話題、他の場で検討中のものなど

地域連絡会議

**目的**：遺産地域の適正な管理のあり方を検討し、検討結果の実現に最大限の努力を行うために設置し、関係機関の連絡・調整を図る

**参加者**：管理機関＋参画団体（＋一般傍聴）

**開催方法**：父島、母島、内地の3会場をテレビ会議システムで接続。

外部ファシリテータを進行役とし、会議形式で開催する。

※これまでどおり公開で開催する

**主な議題**：

- ・懇談会の結果共有（必要に応じて、遺産関連事業に関する情報も共有する）

・懇談会で抽出した「連絡調整事項」及び「課題解決が必要な事項」について、意見交換、議論⇒地域連絡会議の場のみでは解決が難しい課題については、別途、検討の場を設けることも検討、結論の一つとする。

⇒解決に向けて科学的知見を要する場合には、「科学委員会から助言を得たい事項」としてとりまとめ、科学委員会へ助言の要請をする。

■今年度のスケジュール

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、年度当初のスケジュールが変更になっていることから、第1回（本日）は過年度と同様に開催する。
- ・第2回（次回）以降、上記の懇談会を取り入れた進め方とする。

※地域連絡会議・懇談会（仮称）は11月～12月、令和2年度第2回地域連絡会議は12月～翌年1月頃の開催を想定。